

NO	書名	巻次/副書名	著者名	出版年	出版社	内容	現在場所	請求記号	備考
38	下級国民A		赤松 利市 // 著	2020.3	CCCメディアハウス	東日本大震災から半年。困窮する私に土木建築会社から、東北の仕事を見つける仕事を持ちかけられた。営業部長として現地入りしたが、なぜか作業員として現場に出ることに。そこには想像を絶する醜悪な現実が…。著者初の随筆。	一般・日 文	914 7	
37	南相馬メドレー		柳 美里 // 著	2020.3	第三文明社	夕陽の赤が静かに広がる南相馬の町を、小聲で歌を口ずさみながら歩いています。東日本大震災後、福島県南相馬市に転居した著者が綴った2015～2019年のエッセイを収録。『第三文明』連載に加筆修正し単行本化。	一般・日 文	914 ュ	
36	時空に翔る、夢		橋本 ひろ実 // 著	2017.6	文芸社	目の前の愛する人に触れられないもどかしさ…引き裂かれた恋人同士の不思議な3年間のストーリー。東日本大震災を元に、夢と希望を融合したファンタジー作品。	文庫	914 ハ	
35	黒い水		佐佐木 邦子	2015.1	中央公論事業出版	東日本大震災に生きる子どもの心を描いた「黒い水」、伊達家姫の命がけの愛「川」、激流の中に生きる人たちの姿「氾濫」の小説三篇。	一般・日 文	914 サ	
34	絆	走れ奇跡の子馬	島田 明宏 // 著	2017.2	集英社	東日本大震災で壊滅した福島県南相馬市のファーム。牧場主親子は、ただ1頭生き残った子馬リヤンを競走馬に育てあげ、ダービーを目指す。『netkeiba.com』連載を改稿・加筆して書籍化。同名テレビドラマの原作。	一般・日 文	914 シ	
33	名もなき風たち	サッカーボーイズU-16	はらだ みずき // 著	2016.1	KADOKAWA	2011年、高校生になった遼介は関東の強豪サッカー一部に入部。東日本大震災から1ヶ月、サッカーができる現状に葛藤を抱きながら部活に励む。「サッカーボーイズ」後継作の新シリーズ。『文芸カドカワ』連載を加筆・修正。	一般・日 文	914 ハ	
32	揺らぐ街	(仙河海サーガ6)	熊谷 達也 // 著	2016.8	光文社	震災以後書けなくなってしまった女流作家と女性編集者は、被災地である仙河海市に向かい…。東日本大震災を見つめ、描き続ける著者が、東京から見た3.11以後を描く。『小説宝石』連載を単行本化。	一般・日 文	914 ク	
31	東京會館とわたし	下	辻村 深月 // 著	2016.8	毎日新聞出版	昭和46年、新館への建て替えを経た東京會館。緊張で肩を震わす舞台女優、東日本大震災の日、直木賞授賞を知らされた父子…。東京會館の歴史を下敷きとした、優しさと慈しみに満ちた物語。『サンデー毎日』連載を単行本化。	一般・日 文	914 ツ	
30	東京會館とわたし	上	辻村 深月 // 著	2016.8	毎日新聞出版	大正11年、丸の内に落成した国際社交場・東京會館。海外ヴァイオリニストのコンサート、灯火管制下の結婚式、未知のカクテルを編み出すバーテンダー…。“會館の人々”が織り成すドラマ。『サンデー毎日』連載を単行本化。	一般・日 文	914 ツ	
29	アポリア	あしたの風	いとう みく // 作	2016.5	童心社	東日本大震災から約20年後の20XX年、日本の首都を襲う大地震が発生。引きこもりだった中学2年生・一弥の日常は一変し…。人々を襲った悲劇と生きるための奮闘、絶望の果てに見えたひと筋の希望を描く。	一般・日 文	914 イ	
28	希望の海	仙河海叙景 (仙河海サーガ5)	熊谷 達也 // 著	2016.3	集英社	東日本大震災により失われた日常と、得るべき希望。宮城県在住の直木賞作家が東北の港町に生きる人々の姿を通して描く、再生の物語全9編。「あの日」を描かない連作短編集。『小説すばる』等掲載を加筆・修正。	一般・日 文	914 ク	

27	蘇生		五十嵐 貴久 // 著	2015.9	PHP研究所	瀕死の先生を救うため、道なき森へと足を踏み入れた5人の中学生。だが彼らはそれぞれ、ある秘密を抱えている…。東日本大震災を生きのびた子供たちは“闇深き森”を抜け出せるのか。『文蔵』連載に加筆・修正。	一般・日 文	914 イ	
26	EPITAPH東京		恩田 陸 // 著	2015.3	朝日新聞出版	東日本大震災を経て、東京五輪へ。少しずつ変貌していく「東京」を舞台にした戯曲「エピタフ東京」を書きあぐねている“筆者”は、ある日、自らを吸血鬼だと名乗る謎の人物と出会う…。『一冊の本』連載を加筆修正し単行本化。	一般・日 文	914 オ	
25	リバース	ナンバーシリーズ3	相場 英雄 // 著	2015.2	双葉社	東日本大震災と原発事故。そして、「福島にはカネが埋まっている」と囁く詐欺師が仕掛ける被災地支援詐欺…。卑劣な犯罪を心熱き警察官が暴く社会派長編警察小説。『小説推理』掲載を単行本化。	一般・日 文	914 ア	
24	希望の地図	3.11から始まる物語	重松 清 // [著]	2015.2	幻冬舎	いわき、石巻、気仙沼、南三陸、釜石、大船渡、福島、飯館…。東日本大震災の被災地で出会った人、流した涙、そこで見つけた新たな幸福への道すじ。「震災後」の時代の始まりを描いた物語。	文庫	914 シ	
23	アポロンの嘲笑		中山 七里 // 著	2014.9	集英社	唯一無二の親友を殺した-。東日本大震災の混乱の中で起きた殺人事件。逃走した被疑者が向かう先に隠された、驚愕の真実とは。壮絶な人間ドラマを通じて魂の咆哮を描く社会派サスペンス。『小説すばる』掲載を単行本化。	一般・日 文	914 ナ	
22	翼、ふたたび		江上 剛 // 著	2014.8	PHP研究所	経営破綻したヤマト航空。外部から招かれたカリスマ経営者のやり方に反感を抱く社員たちが、次第に意識が変わり、社内がひとつになっていく。そして、東日本大震災が起こり…。JAL再生をモデルにした経済小説。	一般・日 文	914 エ	
21	最後のプレイボール	甲子園だけが高校野球ではない	岩崎 夏海 // 監修	2014.7	廣済堂出版	東日本大震災を選手たちと乗り越えてきた監督。高野連には登録されない「部内マネージャー」として活動した女子マネージャー、彼女が見た「高校野球」とは…。高校野球の雑誌記者や編集者が取材で集めた、22の実話を収録。	一般・芸 術	783 サ	
20	祈りの証明	3.11の奇跡	森村 誠一 // 著	2014.2	KADOKAWA	戦場カメラマンの長井は、東日本大震災に巻き込まれた妻の行方を捜しながら被災地を取材していた。やがて彼は被災地に蔓延する新興宗教「まほろば教」の暗部に肉薄してゆくが…。『野性時代』連載を加筆・修正。	一般・日 文	914 モ	
19	くまのリッキーとにじいろのたまご		ジョナサン・ウィルソン:げんさく	2012.2	イーブック出版	海辺のおもちゃ屋さんに並ぶクマのぬいぐるみのリッキーには、胸に「希望」を意味するイースターエッグがついています。ある日のこと、町が突然揺れ出し、リッキーは津波で海に流されてしまいますが…。	一般・芸 術	726 フ	
18	共震		相場 英雄 // 著	2013.7	小学館	東日本大震災の復興を支える宮城県庁職員の早坂順也が、東松島の仮設住宅で殺害された。早坂と面識のある大和新聞東北総局の遊軍記者・宮沢賢一郎は現場に向かうが…。鎮魂と慟哭のミステリー。	一般・日 文	914 ア	
17	熱血ポンちゃんから騒ぎ		山田 詠美 // [著]	2013.4	新潮社	ニューヨークのグランマの思い出、東日本大震災に思うこと…。素敵なことには興味津々、筋の通らぬことには怒り炸裂!熱血ポンちゃんは今日もから騒ぐ。元気が出るエッセイ。『小説新潮』連載を単行本化。	一般・日 文	914 ヤ	

16	敗者		松山 ケンイチ // 著	2013.2	新潮社	妻への感謝、撮影中に生まれた我が子への愛情、演技に対する苦悩…。大河ドラマ「平清盛」に主演し、1年間、清盛を生きた松山ケンイチが、前を向き続ける志の源を赤裸々に綴る。東日本大震災直後の日記も収録。	一般・芸術	778 マ	
15	原発事故の川柳400脱原発「福島からの風」		伊東 功: 著	2012.9	伊東 功		一般・日 文	911 イ	
14	彼の地へ	3・11からのメッセージ	高橋 佳子: 著	¥1,524	三宝出版	瓦礫も何もなくなった 空っぽの土地に 彼らの形見が 息づいている。東日本大震災から1年を経た今、求めるべき心、人々のつながり、新しい国、新しい文明のかたちを指し示す24篇の詩と写真を紹介。	一般・日 文	911 タ	複本あり
13	人生が用意するもの		川上 未映子 // 著	2012.8	新潮社	「世界みんなが気になるところ」を論じ、東日本大震災を思い、人生のデコボコに微笑しながら、意表を突きまくる…。エッセイ60余篇を収録。『週刊新潮』『日本経済新聞』連載を	一般・日 文	914 カ	
12	東日本大震災復興応援短歌集	啄木の愛したふるさと、その復興に願いを込めて	おもてなしプラザ運営協議会: 編集	2011.8	全国高校生短歌大会実行委員会	2011年に岩手県盛岡市で開催された短歌甲子園開催時に震災復興のための短歌を募集し、編纂したもの。	一般・日 文	911 オ	
11	東日本ふるさと物語		徳間書店 // 編集		徳間書店		一般・芸	726 ト	
10	日本を、信じる		瀬戸内 寂聴 // 著	2012.3	中央公論新社	2012年、ともに90歳を迎える瀬戸内寂聴とドナルド・キーンが、東日本大震災で感じた日本人の底力、生きる意味、自らの「老い」と「死」について縦横に語り合う。	一般・日 文	914 セ	
9	「あの日」からぼくが考えている「正しさ」について		高橋 源一郎 // 著	2012.2	河出書房新社	「非常時」における「正しい」思考とは何なのか？果たして「答え」は存在するのか？高橋源一郎と一緒に考え、そして体験する、東日本大震災からの297日。ツイッターをはじめ各媒体で発表したものをまとめる。	一般・日 文	914 タ	
8	その後とその前		瀬戸内 寂聴 // 著	2012.2	幻冬舎	3.11の前と後。変わるべきことと、変わってはいけないうこと。東日本大震災が起こる1年前と被災から半年後に行われた、瀬戸内寂聴とさだまさしの対談を収録。この国を思う2人からの、過激で愛に満ちた叱咤とエール。	一般・日 文	914 セ	
7	いのちの理由		さだ まさし // 著	2011.1	ダイヤモンド社	音楽は微力だが無力ではない。東日本大震災という災厄の前に、歌手として人として自分に何ができるか。日本と日本人に、勇気と元気を伝える魂のメッセージ。『テレビ・ステーション』連載を加筆修正して単行本化。	一般・日 文	914 サ	
6	生ききる。		瀬戸内 寂聴 // [著]	2011.7	角川学芸出版	作家・瀬戸内寂聴と哲学者・梅原猛が緊急対談! 東日本大震災後、日本人は今、何をしなければならぬのか。東北に縁のある2人が、今こそ日本人に贈るこれからの生き方と希望のメッセージ。	一般・日 文	914 セ	
5	現代詩手帖	第54巻 第5号 2011年5月号/東日本大震災と向き合うために	亀岡大助: 編	2011.5	思潮社	福島県(福島市)出身の詩人、和合亮一の長篇詩、「詩の礫 2011.3.16-4.9」が掲載されている。(p48に新地、p55に新地駅の記載の詩あり。)	郷土資料	911 カ	
4	そして、星の輝く夜がくる	[震災三部作] 1	真山 仁 // 著	2021.1	祥伝社	神戸から、東日本大震災の被災地にある遠間第一小学校に赴任した応援教師・小野寺徹平。彼は児童たちとの交流の中で、被災地が抱える問題と向き合っていく…。混乱から未来へと向かう生命の輝きを描く、連作短編集。	文庫	B913 .6 マ	

3	それでも、陽は昇る	[震災三部作]3	真山 仁 // 著	2021.2	祥伝社	住宅、五輪、ボランティア、産業誘致など、被災地「復興」の掛け声の下で生じる新たな課題。俺は何をするべきか。神戸と東北、ふたつの被災地をつなぐ震災3部作、完結編。『小説NON』掲載に書下ろしを加えて書籍化。	一般・日 文	914 マ	
2	海は見えるか	[震災三部作]2	真山 仁 // 著	2016.2	幻冬舎	東日本大震災から1年以上経ても厳しい現実が続いていた。それでも、阪神・淡路大震災で妻子を失った教師がいる小学校では、希望が芽生え始め…。「そして、星の輝く夜がくる」に連なる連作短編。神戸と東北をつなぐ震災三部作。『パピルス』連載を単行本化。	一般・日 文	914 マ	
1	ゼロエフ		古川 日出男 // 著	2021.3	講談社	話を聞きたい。被災地360kmを歩き抜いた。報道からこぼれ落ちる現実を目にした。ひたすらに考えた。福島で生まれ育った小説家が、故郷に全身で向き合ったノンフィクション。『群像』掲載に書下ろしを加えて書籍化。	一般・日 文	915 フ	